

平成24年度北海道大学情報基盤センター共同研究成果報告書

1. 研究領域番号 A5 デジタルコンテンツ
2. 研究課題名 オープン教育コンテンツの評価と活用
3. 研究期間 平成24年4月23日 ～ 平成25年3月31日
4. 研究代表者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
福原 美三	明治大学 研究・知財戦略機構	特任教授	

5. 研究分担者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
土佐 尚子	京都大学 学術情報メディアセンター	教授	
重田 勝介	東京大学 総合教育研究センター	助教	
岡部 成玄	北海道大学 情報基盤センター	特任教授	
布施 泉	北海道大学 情報基盤センター	教授	

6. 共同研究の成果

研究代表者及び研究分担者は、高等教育の教育コンテンツをインターネット上で無償公開するオープンコースウェア(OCW)に関わっている。本研究では、これらの教育コンテンツ公開の実績をふまえ、とくに、インターネット上で公開されている高等教育のための教育コンテンツの評価と活用に関し、国内外の現状と動向を調査・分析し、方法の検証と開発を進め、課題を明らかにすることを目的とする。2001年、米国MITによるOCWの開始以来、iTunesUでの公開等、様々な形で、高等教育における教育コンテンツ・教育リソースの公開が進み、こんにち、たいへん多くの教育コンテンツがインターネット上で公開されている。公開された教育コンテンツの適切な評価と有効な活用は、高等教育の質の向上と高等教育機関の評価に関わるものである。本研究では、これらについて、OCWをはじめ、オープン・エデュケーションに関わる国内外の様々な活動と連携・協力し、調査・研究を行う。

平成24年度は、高等教育機関がインターネット上で無償公開している教育コンテンツとその評価と活用について、以下の点を中心に調査・研究を行うとともに、講演会及びワークショップ等の研究集会を開催した。

1. オープン・エデュケーションに関する研究会の開催(7月14日)

講師:研究分担者(重田)

東京大学の重田勝介先生に、オープン・エデュケーションについての国外の最新事例紹介と、高等教育におけるオープン・エデュケーションの可能性と限界について、お話しを伺った。大学にしかできない機能の強化やオープンネスの強みを活かした事業の展開が、今後、必要となると思われる。

(研究成果のつづき)



2. オープン・エデュケーションに関する研究打ち合わせ (3月10日, 11日)

本打ち合わせ参加者：研究分担者（重田，岡部，布施）

北海道大学では，東京大学で行われたマイケル・サンデル氏の白熱教室を使った反転教室を，1年生対象の一般情報教育の中で取り入れて学習を行っている。本研究打ち合わせでは，このようなオープンなコンテンツを実際の授業に効果的に取り入れる手法等について，研究打ち合わせを行った。

3. オープン・エデュケーションに関する研究会の開催 (3月22日)

参加者：本共同研究・代表者・分担者全員

本共同研究者全員で，各大学における OCW，ならびにオープンエデュケーションについての情報を共有するとともに，このような活動を効果的に行うために共同で行うべき内容について，議論を行った。

4. 講演会の開催 (3月22日)

講師：土佐 尚子 教授 (京都大学 情報環境機構)

演題：『アート&テクノロジーが導く未来』

芸術と技術をつなぐ「カルチュラル・コンピューティング」を提唱しておられる土佐尚子先生に，韓国の麗水世界博覧会に出展した映像作品の開発の経緯や作品の紹介，さらに，音で生成する生け花などの最新の作品を各種紹介いただいた。